

平成 28 年度山梨県南都留地域教育フォーラム

第 5 分科会

山梨県立富士山世界遺産センター

情報発信スタッフ 原田孝雄

富士山世界遺産センターが果たす役割

1 はじめに

平成 25 年 6 月に富士山は世界遺産になりました。これまでも多くの来訪者が訪れていた富士山は、世界の宝となって、さらに国内外から多くの来訪者を迎える人気のスポットとなりました。その一方で、富士山の美しい山容と文化を未来に守り伝えていくための責務を担うという課題にも直面しています。そのような中、富士山世界遺産センターは世界遺産登録 3 周年目の今年 6 月 22 日に開館しました。南館を新設し、旧富士ビジターセンターを北館として 2 つの館を合わせ、「富士山世界遺産センター」と言います。そして、世界遺産富士山の顕著で普遍的な価値を伝える拠点、また富士山を未来に向け保全する拠点となる施設として、その役割をスタートさせました。



世界遺産センターから見た富士山

2 富士山世界遺産センターの整備

そもそもなぜ、富士山世界遺産センターは、必要だったのでしょうか。その理由を明らかにするためには、1972 年（昭和 47 年）にさかのぼります。この年、第 17 回ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）総会において、「世界の文化遺産および自然遺産に関する条約」（世界遺産条約）が採択されました。現在、条約締結国が 192 か国を数えますが、日本は 1992 年（平成 4 年）、125 番目に締結を果たしました。実は、この世界遺産条約の中に、条約の締結国が世界遺産の保護、保存、整備のために全国的または地域的な研修センターの設置を促進するよう記載されているのです。この研修センターこそが、世界遺産センターの原点となっています。その後、2012 年（平成 24 年）になり、いよいよ富士山の世界文化遺産登録をめざす取り組みが進む中、ユネスコから、世界遺産に登録された場合、世界中からの来訪者に富士山の自然や文化をわかりやすく伝えるとともに、富士山を保全し、未来に継承していく必要性を指摘されました。こうした要請に応え、富士山世界遺産センターの整備が進められました。

3 富士山世界遺産センターの紹介

それでは、富士山世界遺産センターにはどのような展示物等があるのかをご紹介します。

(1) 南館の主な展示物

「富嶽三六〇」…高さ 3m、直径 15m、実際の富士山を約 1000 分の 1 に縮尺し、強化和紙で作られています。吉田大沢、宝永山、大沢崩といった富士山の特徴的な地形も表現されています。

さらに富士山の日々の移ろい、季節の移ろい、富士山を取り巻く自然現象など、様々な顔を見せる富士山を、光と音と映像とともに紹介をしています。



「富士山信仰のすがた」…登拝、巡拝、遥拝という 3 種類の富士山信仰のすがたを紹介するコーナーを設けています。登拝では、江戸時代の終わり、江戸の商家の隠居が、富士山に旅をした日記をもとに、富士講の様子をジオラマで紹介しています。また麓から山頂までの登山体験を映像で楽しむことができます。山頂をめぐるお鉢巡り、山腹をめぐる御中道巡り、山麓の湖をめぐる内八海巡りという巡拝のコーナーでは、御来光や御来迎を映像でご覧いただけます。さらに富士塚、ご当地富士に代表されるような富士山から離れた場所から仰ぎ拝む遥拝についても展示しています。



「芸術の源泉・富士山」…古来より人々に語り受け継がれた富士山、描き続けられた富士山をグラフィックで紹介しています。またマルチスクリーンでは、葛飾北斎の「富嶽三十六景」などの見どころをわかりやすく知ることができます。



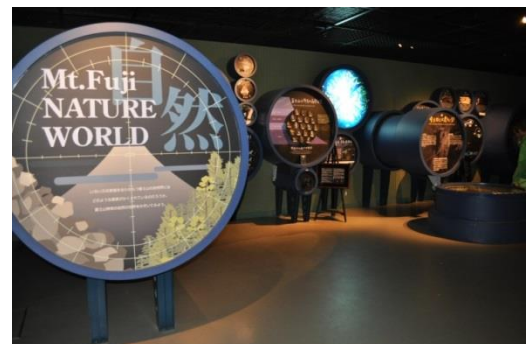
(2) 北館の主な展示物

「富士山シアター」…富士山の歴史、自然を中心としながら、世界遺産富士山についても学ぶことができる 12 分シアターです。

「自然コーナー」…富士山の噴火の歴史、富士山の雲で天気予報、富士山の動植物、さまざまな形の熔岩などを学ぶことができます。

「信仰コーナー」…富士山には 25 の構成資産がありますが、その構成資産をパネルで紹介をしています。また登山道の紹介をしています。

「芸術コーナー」…葛飾北斎、歌川広重の浮世絵などのパネル展示をしています。またフジヤマ伝説劇場ではコノハナサクヤ姫の伝説などを紹介しています。



4 富士山世界遺産センターが果たす役割～教育活動の一助として～

さて、ここまで富士山世界遺産センターの概要についてお話してきました。先にも触れましたが、富士山世界遺産センターは、今年6月22日にオープンしました。4月のスタートからオープンするまでに3ヶ月弱しかなく、その短い期間の中で様々な準備をしなければなりません。こうした中、情報発信スタッフとして、教育団体の受入体制の確立、学校への情報提供・広報活動、教育プログラムの作成など急ピッチで準備を進めるとともに、PRにも努め、ようやくスタートに間に合わせてきたところでした。幸いなことに多くの学校団体からの見学申し込みをいただき、地元山梨の学校からばかりでなく、東京や千葉、埼玉、神奈川といった首都圏の学校からもご来館いただき、富士山世界遺産センターを利用していただいています。そこで教育活動の一助としての富士山世界遺産センターの役割について考えていきたいと思ひます。

(1) 世界遺産富士山を学ぶ

富士山が世界遺産になったことは、よく知られています。では、何遺産になったのかと問われると、文化遺産ではなく、自然遺産と思っている方はまだまだとても多いのが現状です。また、文化遺産ということは理解していますが、世界遺産登録の正式名称「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」を正確に答えられる方はごく少数です。富士山世界遺産センターの大きな願いの一つは、子どもたちに世界遺産富士山の価値を理解してもらい、富士山を未来永劫、引き継ぐ担い手になってもらいたいということです。そこで、富士山世界遺産センターでは、世界遺産としての富士山を学べる施設として、「見て、聞いて、楽しく学ぶ世界遺産富士山」をテーマに、各種学習プログラムを用意しました。

自由めぐり	ワークシート、タブレットを活用して、主体的に学習する
館内めぐりガイド	館内ガイドの解説を聞きながら世界遺産富士山を学ぶ 南館 世界遺産富士山を中心に。 北館 富士山の自然を中心に。
富士山教室	5つのテーマを用意した、いわゆる座学 プログラム①「はじめての世界遺産富士山」 プログラム②「信仰の山、富士山」 プログラム③「浮世絵で学ぶ富士山」 プログラム④「芸術のみなもと、富士山」 プログラム⑤「未来へ引き継ぐ富士山」
自然観察路めぐりガイド	敷地内にある自然観察路を巡りながら、富士山の自然と文化を学ぶ

この他にも学校の要請に応じて、学校や宿泊場所などにも出向いて、「世界遺産富士山」の出前講座なども行っています。

このような学習プログラムを用意し、学校のニーズに応じて様々な学習をすることができるようになっています。これまでに来館した学校団体が希望するプログラムの傾向を見ると、館内めぐりガイド、つまり教育スタッフから館内の解説を聞いて見学することが圧倒的に多い状況です。やはりただ見学するだけでなく、展示物の見方、背景、意味などの解

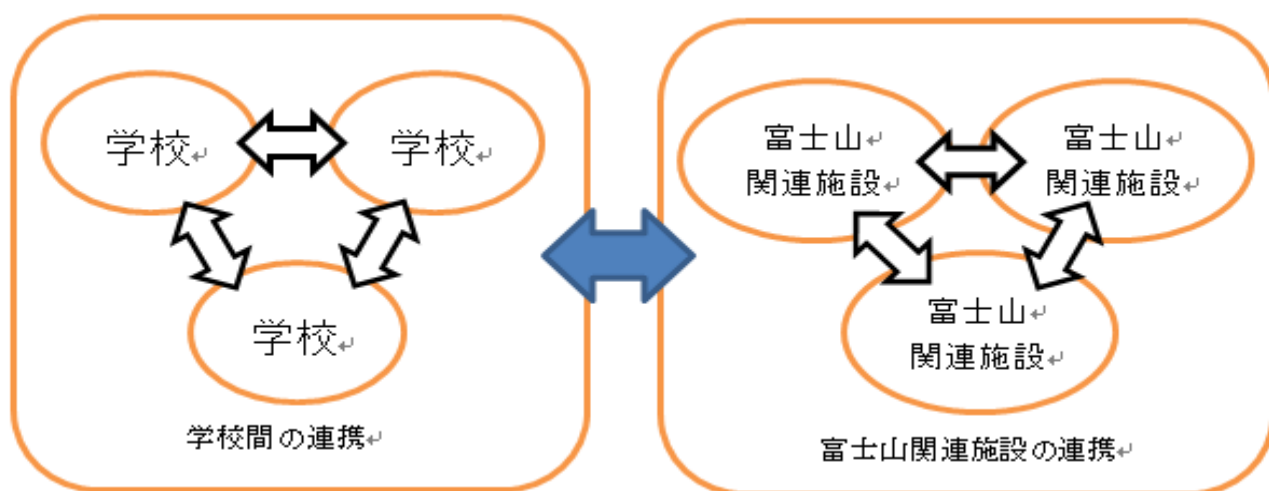
説を聞きながら見学するのは重要な学習プログラムのニーズであると感じています。主体的に学ばせたいという学校団体は、自由見学を選択し、専用アプリ「ふじめぐり」を使って見学させたり、疑問に思ったことを館内のライブラリーで調べさせたり、ガイドに質問させたりすることも見受けられます。そのような意味においては、多様な学び方の一助にもなっているのではないかと考えます。

(2) 連携して教室ではできない学習を補完する

富士山はまたとない学習材であり、これまで多くの地元の先生方の取り組みによって、教材の発掘、開発、実践、体系化が図られてきました。

富士吉田市の学校では、富士山と地域を学び、心を育てる「富士山教育」が体系化し、市内の小中学校一貫して各学年配当された内容を学ぶ仕組みがあります。また、富士河口湖町の学校では、学校ごと独自に行われていた富士山の学習を「富士山学習」として一元化を進め、授業公開を通して、すべての先生が取り組むことができる共通教材を作り上げています。このように学校間で連携した組み立ての中で、世界遺産富士山を学ばせる機会が計画され、体験すること、本物に触れること、専門家に尋ねることなど、普段の教室ではできない学習も、富士北麓のフィールドに出向き充実した学習体制をとっています。

富士山世界遺産センターでは、地元の学校との連携という点では、まだ十分とれているとは言えませんが、学校のニーズをよりキャッチし、教室ではできない学習を補完することができるように進めて参りたいと考えています。また、学校と富士山世界遺産センターという連携だけでなく、富士山関連の学習施設との情報交換、情報共有をして、学習を支援する体制を充実させていきたいと考えています。



5 まとめ

富士北麓地域は、世界遺産富士山がある地域です。その地域に暮らす私たちは、次世代を担う子どもたちに世界遺産富士山の価値を知らせていくことは、重要な使命とも言えます。富士山世界遺産センターが開館したことにより、世界遺産としての富士山の価値を、より多くの方々に理解していただける拠点ことができました。世界遺産富士山を普及啓発し、未来永劫、引き継いでいくため、富士山世界遺産センターとしてもその役割を、学校団体・地域と共に思いを重ね合わせ、進めていきたいと思っています。